

大阪市会「臨時会」公明と共産・市民の質疑

昨日 24 日、写真の代表質疑を傍聴した。傍聴者を 45 名から 18 名に制限したので、抽選になるかと思っていたが意外とスナナリ傍聴席に。公明の西崎議員の質問には、傍聴していて怒りが膨張してきた。昨春まで主張していた「総合区」、唐突に「賛成」に転じた説明もなく、自らの党の主張の「成果」を市長に確認する。住宅や保健所、水道やごみ料金など支持者らの不安や疑問をあげて質問。それにキンチョー感もなく、型通りの答弁を繰り返す松井市長。質疑を聞いていて、つい眠気が。質問時間を 1 分半も残して終了。

令和 2 年 8 月 24 日 市の臨時会の議 議 事 日 程	
第 1 議案第 134 号	特別区設置協定書の採決について
第 2 議案第 135 号	令和 2 年度大阪府一般会計補正予算（第 5 回）

【本日の質疑予定】

14:00～	公明党 西崎 照明 議員
14:20～	共産・市民 山中 賢子 議員

長い「暫時休憩」のあと、共産・市民の山中議員の質問へ。登壇すると、多くの議員から拍手があった。少数会派は代表質疑ができないというので、共産と市民が統一会派を結成して、代表質疑が実現した。大阪市廃止の是非を問う住民投票が現実味を帯びるなか、こうして統一会派による代表質疑ができたことにエールを送りたい。

山中議員はまず、コロナ感染状況についての市長の認識を問い質し、「住民投票などやっている場合ではない」という市民の声を伝える。市長は住民投票というのは不要不急の行事ではない、民主主義のための行事なのだと。過去の新型インフルエンザのことを持ち出し、山中議員の発言にヤジをとばす。写真は帰宅してから慌てて撮った NHK ニュースから。



鋭く追及したのが「財政シミュレーション」更新版だ。税収見通しも立たず、民営化された大阪メトロ「収益」を過大に見積もり、大阪市廃止後の特別区財政は「黒字」になると試算。メトロはコロナ禍で赤字に転落して、中期計画を改定している。コロナ禍以前のメトロからの収益により、試算しているのは大問題などと厳しく追及した。この日の朝、大阪メトロ「黒字」？と題してレポートしたので、なんだか嬉しくなった。

松井市長はコロナ危機で、大阪市のままでも持ちませんと。では、大阪市を廃止して特別区になれば「バラ色」なのか。大阪市廃止後の特別区について、メリットらしきことは語るが、膨大なコストやデメリットには口を閉ざす。脆弱な財政で、特別区の住民サービスが維持できるのかという問いに、明確な答えはなかった。このほか、東京都の特別区、IR=カジノなどについても、市長の問題発言が続いた。また整理してレポートしたい。最初の公明の質疑に比べて、市長が感情的になる場面が多かった。山中議員は最後に「大阪市廃止は時代の逆行だ」と述べ、コロナ危機のもとでの住民投票はやめよと結んだ。持ち時間を 2 秒ほど過ぎていた。

代表質疑はこれで終わり、常任委員会の質疑に。9 月 3 日には、大阪市廃止・特別区設置協定書の採決が予定される。採決されると、11 月 1 日の住民投票に突き進む。残された時間は少ない。



(2020 年 8 月 25 日)